

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292500162		
法人名	株式会社東北産業		
事業所名	グループホームびわの荘		
所在地	〒039-3156 青森県上北郡野辺地町字枇杷野51-24		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>びわの荘は四季の変化を感じることで自然豊かな環境にあり、鳥のさえずり、草花の香り、木々の葉の変化等、季節感を肌で感じながら生活できるよう取り組んでいる。開設当時の職員みんなで決めた理念に込められた思いを常に意識できるよう毎日復唱し、地域社会とのつながりを大切に考えて支援できるようにしている。また、利用者様一人ひとりと顔を合わせての朝の挨拶を徹底しており、そこから気付くいつもと違う変化、異変にも早期に対応できるようにし、ご利用者様、家族ともに安心していただけるよう取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域のイベント参加や交流など計画的な外出支援とは別に、思い立った時にスーパーに買い物に行き、自分で見て、選び、購入し食事のメニューに取り入れ摂取できる事などこれまで暮らしてきた普通の生活が事業所でも継続できるように取り組んでいる。また、日々の会話の中で些細な変化に気付けるよう注意し健康観察に努めている。利用者の家族には、毎月、生活の様子や健康状態を写真付きで解りやすく伝え、安心して頂けるように工夫している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて唱和し職員全員で共有し、理念に込められた想いを理解するようにしている。日々のケアを振り返りながら実践につなげている。	開設当時に職員の思いを反映した理念を、玄関、各ユニットホールに掲示し、毎日のミーティングで唱和し、日々のケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの外出制限、面会制限も緩和傾向に有り、地域の祭り見学、地域の子供たちの訪問、自宅や近隣スーパーへの外出等を実施し、地域の一員としてつながりを持ちながら暮らせている。	今年度は、地域のイベントへの外出や幼稚園児を招待し対面で触れ合う機会を持ち、コロナ前のような地域の方々と交流が実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防を実施しながら、地元の高校生を対象にインターンシップを受け入れ、施設実習を通して認知症の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月1回開催し利用者様の現状報告、施設運営など問題点などを話し合い、委員からの助言や意見交換を行い今後の施設運営に繋げている。	2か月に1回実施し、行事などでの利用者様の様子は議事録や写真での報告だけでなく、動画で利用者様の様子を伝え、より具体的な対応で家族に安心して頂けるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に施設管理者が町の担当者との連携を図り、協力関係を図っている。	町主催の多職種連携に関わる研修等に参加するなど積極的な関わりに努め、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の必須テーマとし身体拘束ゼロを目標に定期的に(年2回)内部研修や委員会を開催し、職員に周知意識統一心がけるとともに拘束の無い生活に取り組んでいる。	身体拘束ゼロを目指し、年2回の研修を実施している。委員会が中心となり、2か月に1度チェックシートを活用し、職員が共通の意識を持ちケアに反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度委員会を開催し利用者様一人ひとりのケア方法を確認している。毎月「虐待の芽チェックリストを活用・実施することで、虐待を未然に防げるよう努めている。また、年2回内部研修を実施し高齢者虐待防止法について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を設けている。リモートでの外部研修も積極的に参加を考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、入居後もご本人やご家族様に疑問や不安が無いかを確認しながら気楽に話せる雰囲気や声かけを行っている。退所後もご家族様に不安が無いよう情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時に生活状況や身体状況を報告し意見や要望を聞いている。月に1度お便りとして利用者様の状況を報告しています。電話での報告もしています。	家族が面会に来た時や電話や月1回の便りで状況を伝え、意見や要望を聞くように努めている。衣類の買い替えなど家族が気にかけている事にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はホームの運営について一方的に進めるのではなく、職員の意見や、要望や、気付きを大切にし月1度の職員会議や委員会の他、日常の中で話しやすい雰囲気に努めている。	月1回のユニット会議や全体会議の場で職員の意見を聞く機会がある。その他、毎日の申し送りの際に職員からの気付きや意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で職員個人の半年ごとの反省と次期の目標の機会を設け、管理者としての評価を行っている。コロナ禍において如何にモチベーションを保てるか各職員の能力や人柄に合わせた声かけを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議において内部研修を行い、日々の業務に活かせるようにしています。しかし現在、コロナ禍の為外部研修が難しい為、各職員が講師となり学習出来る機会としています。今後は積極的に外部研修の参加をしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での交流や同法人事業所が集まる会議の場等でサービス向上についての取り組みについての報告や助言を受けることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階でご本人や今まで支援してきたご家族様と面談し、関係機関から情報を提供して頂き、安心出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろん、ご家族様はどう考えているのか、どのようにしたいのか、心配や不安、要望等を傾聴し対応するようにしています。利用者様、ご家族様と良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援をご本人や家族様との面談の中で職員間で話し合いをし、見極め、柔軟性を持った対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存機能を生かし出来ることを行っていくようにしています。各、利用者様に見合った役割分担を誘導し、職員と一緒に生活するような関係で、見守り、声かけを行い生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に支援することを意識して、受診の協力を頂き、利用者様のケアについて相談し共に支援していく関係づくりに心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を把握し、自宅や美容院に出掛ける等これまでのつながりが切れないように支援を心がけている。また、家族様との顔が見え手が触れ合える距離での面会や外出等も感染防止配慮しながら実施できている。	入居前からの行きつけの美容室への外出や自宅を見に行くなどの外出支援を実施し、馴染みのある関係を維持できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームは3ユニットあり、互いのユニットを自由に行き来できる構造になっている。ユニットを超えて利用者様の関係性があります。利用者様が自由な空間を利用し、孤立することなく過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係性を大切に、必要に応じて相談や支援に努めています。又、退去先へのこれまでの生活状況の情報を提供し、安心、安全な生活が継続出来るよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、思いや意向を汲み取れるように努力しています。ご家族様の考えも大切に、利用者様の視点にたった暮らしに努めている。	日々の会話や表情から困ったことがないか、また、家族からの聞き取りも含め色々な角度から把握するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を共有し、入居後も新たな情報が発覚することもある為、会話を多く持ち、ユニット会議等で共有出来る場を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前にどのような生活をしていたのか、それを踏まえて、当ホームではどう過ごしていれば心地よいのか検討しています。生活状況を記録に残し、職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや、生活状況・家族の意見や希望をアセスメント、カンファレンスを行いその時に合った介護計画を立案します。コロナ禍の為、家族様から直接意見を聞くことはありませんでしたが、来所時又は電話で必ず聞くようにしています。	日頃の関わりの中で、本人の思いを把握し、家族の意見や希望も取り入れ介護計画を作成している。ケース担当者が毎月モニタリングを実施し、カンファレンスにおいて職員間で意見交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりのの日常の様子や体調管理、ご家族様への電話連絡等、具体的に個別に記録し、職員間では連絡ノートや業務日誌等で共有し統一したケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて、予想外のことが生じて柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員の方との最低限情報交換をし、信頼関係を継続していきたいと考えております。地域の行事参加や馴染みのお店や場所でのふれあいを大事にしその人らしく安全で豊かな暮らし、生きがいを持っていただけるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の受診状況を把握し、利用者様やご家族様が希望する医療機関の受診を継続している。ご家族様にも受診時に協力して頂き医療機関やご家族様と連携して支援している。	本人及び家族の希望により入居前からのかかりつけ医の通院を継続している。家族の協力が得られれば通院に同行して頂き情報共有を図っている。通院困難な利用者は、身体状況に合わせて訪問診療を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は普段の利用者様の体調を把握し、必要に応じて看護師に連絡・相談・報告し連携を図っている。看護師も24時間体制で待機しており緊急時、病院連絡、同行し協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際医療機関と情報交換や早期退院に向けて家族様と連絡を取りながら連携してしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期への対応方針を入居時に利用者様や家族様に明確に説明し、同意を得ている。	入居時に重症化した場合等についての指針を説明している。看取りについては随時必要に応じ改めて家族に丁寧に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や緊急時の対応等急変時マニュアルや緊急時連絡網を活用し、職員が何があっても落ち着いて対応出来るようにしている。内部研修のほか、応急処置や救急救命講習を年1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(日中・夜間想定)を消防署の立ち合いのもと、消防設備業者に協力して頂き実施している。また、今年度より、隣接する系列事業所と協力体制を構築し、いざという時に備え安全な避難場所を確保できるよう取り組んでいる。	年2回訓練を実施している。隣接する特別養護老人ホームを災害時協力事業所として消防に届け出し、協力体制を築いている。災害時の備蓄品他、利用者の内服も不足しないよう期限を確認しながら備蓄し、対策している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩で有ることを絶対的に忘れず、尊重し、否定しない介護を常に心掛けている。表情や行動、言動を大切に支援することを全職員で徹底している。又、守秘義務義務や個人情報と取り扱いにも注意している。	利用者が不快な思いをしないように接遇についても内部研修を行い、プライバシー保護や尊厳について理解を深め、日々のケアに反映させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様が自分の思いを表せるような声かけや対応に配慮している。うまく言葉表現出来ない利用者様は表情や仕草等から読み取るよう、自分の思いを表せれるよう働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、利用者様の一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。又、、その時々々の要望や状況に合わせた柔軟性の持った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや嗜好・趣味を把握し髪型や化粧品、服装を自己決定できるようにしている。選択できない利用者様には季節や気候にあった清潔で快適な身だしなみが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食前に献立を説明したり、メニューの作り方を聞いたり、仕込みのお手伝いを職員と一緒にしている。利用者の意向を確認し、季節の食材や郷土料理等も取り入れている。また、系列事業所の栄養士に相談し、献立表の見本を参考に献立作りに取り組んでいる。	系列法人の管理栄養士の献立を参考にメニューが固定化しない工夫をし、季節を感じられる献立を提供するよう努めている。差し入れがあった時や利用者と一緒にスーパーに買い物に行った際は、利用者が食べたい物を購入し、メニューに活かすなど利用者の好みと栄養を考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った食事形態に努め、水分量や摂取量を記録し、栄養管理につなげている。嚥下状態や利用者様の状態に合わせ全量摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は、肺炎や心疾患等の疾病につながる可能性がある為、毎食後必ず口腔ケアを行い口腔内に問題があれば、必要に応じ訪問診療を依頼し、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように誘導、声がけを行い自立出来るよう支援している。	排泄チェック表の活用により個々の排泄パターンを把握し、日中はほぼ全員をトイレで排泄出来るよう声掛けし、誘導して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事や水分摂取、体操等を実施。活動状況や食事・水分量を把握し、便秘予防や自然排便が出来るように努めている。必要に応じて看護師に相談、服薬調整等指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の意向に合わせた入浴を考えていますが、調整が難しい時もあります。現在、入浴拒否の利用者様はおりませんが声がけや誘導を工夫しながら成功事例を参考にしながら利用者様が快適に入浴出来る環境に努めている。	利用者の身体状況に合わせリフト浴にも対応し週2回の入浴を実施している。拒否のある利用者には、短時間入浴や足浴、清拭など臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の予定は有るもの一人ひとりの生活リズムが違う為、起床、就寝、食事等は強制せず柔軟性を持って臨機応変に対応しています。安眠、就寝の際は空調や明るさにも配慮しています。又、必要に応じて、家族様や医療機関に相談しながら薬剤の調整を行う時もあります		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各、利用者様の服薬状況を把握し、飲み込みまで必ず確認し、飲み忘れや、誤薬の無いように体制は整っている。服薬状況は記録に残し、処方内容が変更になった時は全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の一人ひとりの出来ることに着目し食材のカット、盛り付け、洗濯物の畳み、食器拭き、野菜作り、食材の買い物等、楽しみながら役割分担できるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設対応の外出行事や地域の行事の為外出している。5類に移行後は、家族との外出の機会も増え楽しんでいただいている。戸外への散歩や近隣スーパーへの買い物等で外出できている。	周辺の舗装されたエリアは、いつでも歩行器を使用し、戸外を散歩出来る環境にある。夏は、畑での収穫など外に出る機会も多く、日常的に行う買い物も利用者と一緒に出出し日常的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者様は希望にてお小遣い程度を個人で管理しており、自動販売機でジュースを購入している。他の利用者様は家族の希望にて施設で管理。外出行事の時や散髪代として使用し、毎月の支払い用途は家族様に出納簿を記載し写しと領収書を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、利用者様の希望に応じ対応している。今後も、電話を掛けやすい雰囲気作りに努め行きたいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは利用者様が行きやすいように配慮している。ホールには大きなソファがあり、テラスから四季を感じることが出来、ゆったり寛ぐことが出来る。四季を通して壁面装飾を工夫して、居心地の良い環境作りに努めている。又、温度調節や照明にも配慮している。	共有スペースは、大きな窓からの採光により明るく、季節ごとの景色を楽しめる。室内も四季を感じられるよう装飾している。湿度や温度は温度計のみに頼らず、利用者の様子や聞き取りを基に空調を調節し快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際にソファを置き、自由に自由に過ごせるようにしている。利用者様同士で交流がしたり、寛げれるようにしている。職員も対話の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物や利用者様家族の写真や旦那様との思い出物等や施設で作った作品等を飾るなどして工夫している。	家から持ってきた位牌や家族との写真など思い出のあるものを居室に飾るなど居心地良く過ごせるよう配慮している。持ち込みを断ることはないが、職員が安全確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の一人ひとりの身体状況に応じて手すりやスロープ等を設置している。利用者様が安全に行動出来るように配慮している。今後も可能な限り工夫して、自立した生活が出来るよう支援していきます。		